

名称:白磁象嵌連唐草紋大椀
種目:大韓民国国宝第 175 号
時代:朝鮮時代 (15 世紀)
所在:大韓民国国立中央博物館



韓国からの

ホットニュース

2006. 8. 16 No.289

中国往復航空料金がわずか 20 万ウォン

わずか 20 万ウォン(約 2 万 3000 円)で中国旅行を楽しめる。これは中国航空会社の運賃引き下げが理由だが、今後、アジアナ航空、大韓航空などの韓国航空会社も料金引き下げの動きを見せており、韓中間の運賃引き下げ競争が本格化する見込みだ。

業界によると、中国東方航空は山東省青島 - 仁川間の航空運賃(往復)を先月 28 日、40 万ウォンから 24 万ウォンに引き下げたのに続き、10 日から 20 万ウォンに追加で引き下げた。煙台 - 仁川間の運賃は 45 万ウォンから 24 万ウォンに、代表的な休養地・海南島の三亜 - 仁川間は 55 万ウォンから 26 万ウォンに下げた。9 日から週 2 回新規就航した寧波 - 仁川間の料金は 24 万ウォン。

東方航空の企画広報室長は、観光客は今後、済州道旅行と同じ費用で中国旅行を楽しめるようになったと説明し、近いうちに 10 万ウォン台で中国と韓国を往復できる時期がくると予想した。

国内航空会社も慌しく動き始めている。アジアナ航空は 25 日から 35 万ウォンの煙台 - 仁川区間の料金を 20 万ウォンに引き下げることにし、他の路線の運賃引き下げを検討中だ。大韓航空も今後、中国の複数の路線で供給増大および競争の激化が予想されるため、市場で競争力ある価格で対応をする計画とし、運賃引き下げを準備中であることを示唆した。

韓日中通貨統合ロードマップ作成へ

政府が東アジア通貨統合のためのロードマップ作成にとりかかる。財政経済部は韓国の立場で最も適切な通貨統合方式と過程、これを域内で適用するための戦略を盛り込んだ東アジア通貨統合ロードマップ作成のための研究を始めることにしたと 14 日、明らかにした。

企業の接待費が 25% 増加

韓国銀行が 6 万 6,513 社を対象に作成した 2005 年企業経営分析によれば、2005 年の接待費支出額は 2 兆 9,596 億ウォンと前年に比べ 25.6% 増加した。韓銀は国税庁の接待費実名制度が導入されて 2004 年の接待費支出額は 2 兆 3,057 億ウォンと前年に比べ 18.9% 減少したが、制度の効果が薄れて再び増加に転じたと説明した。また、昨年の企業の接待費増加率が売上高増加率(15.2%)を上回ったことから、売上高に占める接待費の比重は 2003 年の 0.23% から 2004 年は 0.17% に減少したが、昨年は 0.18% と増加に転じた。

特に、製造業者 2 万 4,691 社の接待費支出額は 2003 年の 1 兆 2,064 億ウォンから 2004 年は 1 兆 1,280 億ウォンと 6.5% 減少したが、昨年は 1 兆 3,315 億ウォンと 18.0% 増加した。売上

高に占める接待費の比重も 2003 年の 0.18%から 2004 年は 0.15%に下落し、昨年は 0.16%に上昇した。

ソウルの勤労時間は世界 1 位

スイスの金融機関である UBS は 9 日に発表した物価と収入という報告書の中で、ソウル市の勤労者の労働時間は年間 2,317 時間と世界で最も長かったと明らかにした。

報告書によれば、アジアの勤労者の平均労働時間は年間 2,088 時間で、パリの勤労者の労働時間は年間 1,480 時間と最も短かった。UBS の関係者はヨーロッパの勤労者は余暇時間を増やすために労働時間を短縮してきたが、アジアの勤労者は所得を重視しているため労働時間が長くなっていると分析した。

購買力の側面では、ソウル市の勤労者がマクドナルドのビッグマック 1 つを買うために必要な労働時間は 29 分と世界の平均(35 分)を下回った。また、ソウルの物価水準(住宅価格を除く)は 85.8(ニューヨークを 100 とする)であったが、住宅価格を含めた場合は 73.9 を記録した。

60 歳以上のインターネット利用者が増加

情報通信部が発表した 2006 年度上半期の情報化実態調査によれば、今年 6 月末現在における 6 歳以上 30 歳未満のインターネット利用者数が 2,470 万人と昨年 12 月末に比べ 0.56%減少したのに対し、60 歳以上のインターネット利用者数は同期間に 73 万人から 96 万人と 31.5%増加した。

情通部の関係者は低出産高齢化の趨勢がインターネットの利用実態にも現れたと説明した。また、インターネットの利用目的は資料・情報の獲得が最も多く、電子メール・チャット、余暇活動、ショッピング・予約、教育・学習、ホームページ・ブログが後に続いた。

年末から新 10 ウォン硬貨を発行

韓国銀行の金融通貨委員会は 10 日、今年末から素材とサイズを変更した新 10 ウォン硬貨を発行することにした。新 10 ウォン硬貨のサイズは現行の直径 22.86 ミリから 18.00 ミリと 50 ウォン硬貨(21.60 ミリ)よりも小さくなる。

素材も黄銅(銅 65%、亜鉛 35%)から銅を使ったアルミニウムに変更され、重さは 4.06 グラムから 1.20 グラムに軽くなる。

韓銀の関係者は現在の 10 ウォン硬貨の金属素材の価値は 24 ウォンで、工賃費用まで含めると 10 ウォン硬貨 1 枚を作る費用は 40 ウォン程度になる。新 10 ウォン硬貨にすることで製造単価が 20 ウォン程度に下落し、年間で 40 億ウォンの製造費用を節減できると説明した。

ポスコ、ベトナムで鉄鋼事業を推進

ポスコが中国、インドに続いてベトナムでも製鉄所を建設することを検討していることが分かった。ベトナム鉄鋼協会はポスコが 10 億ドルを投入して製鉄所を建設する内容の提案書をベトナム政府に提出し、ベトナム南部のバリアブンタウを製鉄所建設用地として内定したと明らかにした。

ポスコは冷延と熱延の 2 段階に分けて製鉄所を建設し、2012 年に工事が完了する計画である。生産量は 300 万トンとベトナムのプーミ製鉄所(20 万トン)を大きく上回る。これに関して、ポ

スコの関係者はベトナム政府と工場建設に関する協議を行ったことはあるが、具体的な投資額や時期などは全く決まっていない状態だと話した。

人工関節手術用ロボットの事業権を確保

コスダック上場企業であるコナムナノバイオ社はアメリカの医療機器業者である ISS 社が世界で初めて開発した人工関節手術用ロボットロボドックに関する特許権など 24 の知的財産権と独占生産権、全世界での販売を米ノバトリックス社から無償で贈与されたと明らかにした。

ノバトリックス社はコナムナノバイオの転換社債 2,400 万ドルを保有する予備最大株主で、資金難に陥っていた ISS 社の全ての知的資産および事業権を資産負債移転(P&A)方式により 400 万ドルで買入れていた。コナムナノバイオの関係者は、しばらくは ISS から製品を輸入して国内およびインドでロボドックを販売し、作動プログラムや組立技術などが移転される来年 8 月からは国内で生産する方針だとし、ロボドックに関する全ての権利を確保したことで、国内外で今年は 30 億ウォン、来年は 240 億ウォンなど 2010 年までに 5,000 億ウォン以上の新規売上高が期待されると話した。

中央日報次期大統領候補世論調査は朴槿恵 27%、李明博・高建 20%

朴槿恵前ハンナラ党代表が次期大統領候補支持率で単独トップに出た。ビッグ 3 に挙げられる李明博前ソウル市長と高建元首相はそろって 2 位となった。これは中央日報調査研究チームが 10 日、全国の満 19 歳以上男女 835 人を対象に実施した世論調査によるものだ。

大統領候補に挙がっている 6 人のうち誰を最も支持するか聞いた結果、朴前代表が 27% で 1 位、李前市長と高元首相はそれぞれ 20% だった。続いて鄭東泳前ウリ党議長 4%、孫鶴圭前京畿道知事 2%、金槿泰ウリ党議長 1% の順だった。支持する人はいないという回答は 22% だった。朴前代表はハンナラ党支持者、高元首相はウリ党支持者から相対的に高い支持を受け、李前市長は両党から支持を受けている。ハンナラ党支持者らは朴槿恵(43%)、李明博(26%)、高建(13%) の順で、ウリ党支持者らは高建(26%) 朴槿恵(19%) 李明博(18%)、鄭東泳(13%) の順で支持を明らかにした。

大統領候補支持率は 6 カ月単位で大きな変化を表している。1 年前には高元首相、6 カ月前には李前市長が 1 位だった。昨年 8 月、中央日報の調査では高建(30%)、朴槿恵 16%、李明博 15% の順で、今年 2 月の同じ調査では李明博 23%、高建 21%、朴槿恵 18% の順だった。

盧武鉉大統領国政運営に対しては肯定評価 21%、否定評価 75% だった。大統領国政運営に対する肯定対否定行為評価比率はこれまで 1 対 2 を維持してきたが、今回の調査で 1 対 3 以上に開いた。2005 年 2 月 35% 対 64%、8 月 33% 対 67%、2006 年 2 月 34% 対 65% だった。

政党支持率はハンナラ党 37%、ウリ党 12%、民主労働党 9%、民主党 5% の順で支持政党なしは 37% だった。電話で実施した今回の調査の最大許容標本誤差は 95 信頼水準で ±3.4 ポイントだ。

以上。カムサ・ハムニダ。